

第56号

ぽっかぽか

函南病院新豊部



こんにちは、地域医療連携室です。

私たちは現在看護師2名とソーシャルワーカー3名の計5名で昨年より連携室として活動しています。

前方支援

業務の内容として前方支援と後方支援、医療相談があります。前方では他施設から転院の相談を受け、医師に相談し入所判定会などで情報を共有、受け入れ可能かを判定しています。緊急の場合は、当該部署などに直接お願いすることで迅速に対応できるように努めています。出来る限り患者家族の方には病院まで来て頂き情報に基づき面談、院内見学や入院説明などを行い当院のことを知って頂き安心して転院できるように時間を取っています。また必要時には紹介元に赴き患者さんと直接会い不安軽減を図ったり、当院で療養可能な情報を頂いたりしてまいります。いずれにしても速やか

後方支援

な対応を心掛けています。

後方では入退院支援、在宅療養支援及び相談業務として入院患者に入院中の治療や入院生活に係る計画の備え、薬剤部・栄養部との連携を図り、入院中の療養計画を立て患者及び関係者と共有し入院加療後の退院支援に繋がります。患者家族に必要な社会資源の調整を図ったり、居託における環境調整が必要な場合、必要な職種で患者に赴き退院前訪問を行ったり、より適切な介護が受けられるよう委託介護支援事業者や介護支援専門員等との退院前カンファレンスの調整を行う等、十分な連携を取りスムーズに在宅へ移行し安心して療養できるように支援を行っています。

医療相談では、医療や福

連携

社に関する様々な相談に対し、ソーシャルワーカーが福祉の専門的立場から患者家族が抱える心理的、社会的問題を解決及び調整し社会復帰への援助を親切丁寧に対応しています。

今後とも医療連携室として地域の医療機関や様々な関連機関との連携を図り、地域における病院的役割や機能を最大限に発揮できるように、また地域のニーズや状況を把握し情報の提供、交換、共有などに積極的かつ迅速丁寧な対応を心掛け、地域の医療・介護・福祉の専門職相互との連携を深め、信頼を築き、患者家族の安心と満足が得られる療養環境を提供できるように、入院から退院までを医師をはじめ看護部・MSW・事務部・薬剤部・栄養部・リハビリ部等全



地域医療連携室 室長 田村

ご意見などありましたらいつでも声をかけてください!!

- 病院理念
 1. 私たちは地域にとってよりよい医療・介護を目指し努力を続けます。
 2. 患者様に信頼される技術と暖かいホスピタリティを提供できることが私たちの目標です。
 3. 私たちは医療人として楽しく働ける職場作りを目指します。
- 病院基本方針
 1. 我々は病氣 (Common Disease) を安全・快適に治療することを目標としています。
 2. 我々は当院の専門分野での高い医療レベルを維持することに努めます。
 3. 我々は地域の他の医療機関・施設との連携を大切にします。
 4. 我々は個人の尊重を重んじ、人生の終末期に対して入院および在宅医療・介護を通じて取り組みます。



創傷ケアセンター外来を再開しました！



当院で創傷ケアセンターがスタートしたのは、平成16年4月

です。それから15年経ったことになり、当時は下肢の傷を集中的に治療しようという考えはまだほとんどなくニッチ(隙間)の医療という位置づけで、「創傷ケアって何?」といった状況でした。アメリカには既に多くの創傷ケアセンターが開設されており、ロスアンゼルスを本拠地としていたミレニア社との提携により当地での研修を経てスタートしたことでした。

最初は1例1例症例を積み重ねるといふ地道な努力が続きました。スタッフの情熱と努力

で20くらいあるミレニア社との提携施設のなかでも有数の治療成績をあげることができるようになり、年間の最多新規患者表彰の栄に浴した年もありました。この間、「創傷ケア」を取り巻く環境も大きく変わってきました。多くの学会、研究会も生まれ「創傷ケア」「フットケア」といった言葉は一般市民にも浸透してきました。ただ、15年という期間の中でスタッフの移動等もあり、残念ながら一昨年から新規の外来患者さんを一時的に停止せざるを得ない状況となってしまいました。創傷や褥瘡の診療はストップしていたわけでは無いのですが患者さんにもご迷惑をおかけする結果とな

りました。



1年半ほどのブランクとはなりましたがやっと新規患者の受付を再開できることになり5月から外来診療を再開しています。これまでも同じ木曜日の午後、津野憲雄、久 晃生の2名の医師が診療に当たっていました。創傷ケアもスタート当時のなかなか治らない難治性の下肢潰瘍を集中的に治療しようというコンセプトは変わりませんが、この間創傷治療についても「局所陰圧閉鎖療法(NPWT)」や「自己血による多血小板血漿に

よる治療(PRIP)」といった新しい治療方法も可能となりました。一方、た



だ傷を治すだけでなく、傷を作らないための足の手入れや靴に代表される装具の工夫をしようといわゆるフットケアやフットウェアへと次第に幅が広がってきています。

今後足傷や褥瘡でお困りの皆さんのために努力を続けてゆきますのでどうぞよろしくお願い致します。

院長 久 直史



久 晃生 先生

津野憲雄 先生

歯科衛生士活動中



はじめまして
平成31年4月1日より勤務しております歯科衛生士の大久保恵子と申します。

現在それぞれの病棟を毎週一回ラウンドし、病棟師長をはじめスタッフからの情報をもとに病室に伺い、患者様のアセスメントを作成し必要に応じて介入しています。



入職して3か月が過ぎようとしていますが、まだまだお役に立てていない状態だと思います。それぞれの病棟での必要性を理解し効率的に活動していけるよう、多職種の皆様からの相談などどしどしお寄せ下さい。お待ちしております。

力不足な点多々あろうかと思いますが今後ともよろしく願いいたします。

齊藤さんちのしじみ君(雄)



TV観戦中

まだ一歳になっていません

好物：とうもろこし
利き手：両手
特徴：犬的な鼻の黒さ
リードを付けての散歩が大好き

性格：気が弱い
この前、顔にネコパンチを5発くらい、鼻をガッシと咬まれました。
家に来た時はプリティーだったのに！

家に来た時から時を経る...

今でもプリティーでしょ



ひねあい広場



七夕

西2F病棟



西3F病棟



西3F病棟の人のゆきかう風に揺れる短冊、患者様からも聴きながら短冊にその願いを代筆し、飾り付けました。ここの病棟ではゴールに向かって毎日、リハビリや治療に頑張り退院の日を迎える場所でもあります。小さな七夕飾り、頑張られている患者様もその前で足を止め、ふっと、「七夕かあ」と感じて頂けたら幸いです。

また西二階病棟の詰め所前には、手作りの飾りを添えて七夕をむかえていました。ここでは四季に応じてスタッフが壁飾りを手作りし可愛く飾りつけています。ぜひ一度ご覧下さいませ。

西3階病棟 半田

7月5日(金) 緩和ケア病棟で毎年恒例の七夕会を行いました。

患者様やご家族、スタッフ、スタッフの子どもによるボランティアなど多数の参加があり、賑やかな会となりました。

ボランティアの野島様による楽器の演奏を聴きながら、夏の風物詩である流しそうめんやお食事を楽しみました。イベント中はお食事や会話を楽しまれる患者様とご家族の笑顔が多くみられ、スタッフも嬉しく思いました。今年はスタッフ5名が浴衣を着て参加し、「夏らしくていいね。」と患者様に喜んで頂けました。

今回のイベントが患者様とご家族のかけがえのない思い出の一つとなっていれば幸いです。

緩和ケア病棟 船岡



今回介護病棟のレクリエーションは!!

昭和小学校前での お花見会&記念撮影

当日はお天気良好。紫外線を顔面にふんだんに浴びながら現地に向かう。久しぶりの外出で皆さんの顔には笑顔がチラリ。

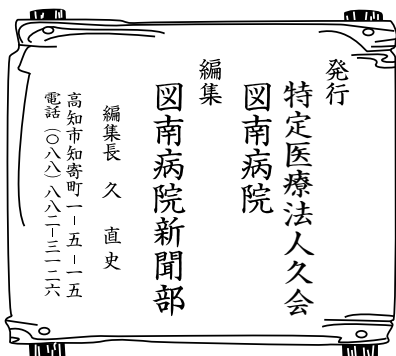
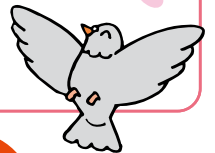
(息切れし真顔の職員も若干1名居たが気にしないでおこー…。気にしない、気にしない…)

桜満開70%をバックに写真撮影~(^^)!その後は近くの公園でおやつタイム!!

残りの時間では、公園在住の鳩たちの要望にお応えし餌やりや、大小様々な鳥たちの餌をめっけての熱き戦いを見れたり、楽しく時間を過ごされたかと思ひます。

来年も行こう!きっと鳩もまってるはず…ポッポー!!

介護病棟 松原



MAP

